

2019年2月28日

立教大学国際学術研究交流制度  
2018年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	経済学部・准教授
	氏名	佐々木 隆治
受入学部・研究科・研究所		経済学部
招へい 研究員	所属・職	Associate Professor, Department of Sociology, York University 所属機関所在国：カナダ
	氏名	Marcello Musto
招へい期間		2018年12月21日～2019年1月20日（31日間）
研究経費		656,130円

2. 滞在中の活動

来日日および離日日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例）〇〇について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

\*「本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動」を行った場合は、該当する活動内容に※を付してください。

年月日	活動内容
12月21日	来日
12月22日	「マルクス生誕 200 年記念国際シンポジウム」(Review Session on Musto's <i>Another Marx</i> 、法政大学市ヶ谷キャンパス、分科会約 30 名、全体約 200 名)
12月23日	「マルクス生誕 200 年記念国際シンポジウム」の総合討論「21 世紀におけるマルクス」に登壇予定だったが、体調不良のため不参加
12月27日	研究会「ムスト氏編著 <i>Workers Unite! The International 150 Year Later</i> について」(立教大学池袋キャンパス、約 10 名)
1月5日	研究会「ヨーロッパにおける 1989 年以降のラディカルレフトについて」(立教大学池袋キャンパス、約 10 名)
1月9日	研究会「世界のマルクス研究について」(立教大学池袋キャンパス、約 10 名)
1月10日	雑誌『KOKKO』取材

1月12日	河野真太郎氏（一橋大学准教授）と対談イベント「マルクスと現代資本主義世界」（朝日カルチャーセンター、約20名）
1月19日	講演会『『アナザー・マルクス』』について マルチェロ・ムスト氏講演会」（立教大学池袋キャンパス、約50名）

### 3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

今回招聘したマルチェロ・ムスト氏は、世界的に名を知られるマルクス研究者であり、また「マルクス・リバイバル」の旗手役として、世界各地での講演や国際シンポジウムの企画・実施を行うなど精力的に活動されている。今回の招聘期間中には、大学教員や大学院生などの研究者を対象とした研究会を開催したほか、講演会を複数回実施した。ムスト氏は参加者にあわせて講演の内容を柔軟に変化させ、また参加者からの質疑を重視されているため、どの回でも参加者との議論・交流が活発に行われた。

#### ●立教大学で開催された研究会・講演会

ムスト氏は立教大学で3回の研究会と1回の講演会を実施した。研究会には、マルクス研究を専門とする研究者を中心に、大学教員や大学院生などが参加した。研究会では、世界的なマルクス研究者のネットワークを持つムスト氏から最新の情勢や知見についての報告を受けつつ、その報告に応答する形でマルクスを専門とする参加者から日本独自の状況についての情報が提供された。それらを踏まえた議論をとおして、双方にとって有益な交流の場とすることができたと思われる。

#### ・12/27「ムスト氏編著 *Workers Unite!: The International 150 Year Later* について」

ムスト氏の専門の一つである第一インターナショナルについての報告ののち、参加者を交えた質疑応答と議論を行った。*Workers Unite!* には第一インター関連の重要文書が収められており、そのなかには初めて英語に翻訳されたものも少なくない。これらの文書を踏まえて、ムスト氏は、しばしばマルクスが終始主導的な役割を果たしたという描かれ方をする第一インターが、実際はラサール派やブルドン派、ユートピア主義者など多様なグループの動きのなかで形成されていったことを展開された。報告の後には、現在の政治状況に対して第一インターの経験がどのように活かすことができるかを中心に、活発な議論が行われた。

#### ・1/5「ヨーロッパにおける1989年以降のラディカルレフトについて」

この報告では、ムスト氏の”*The Post-1989 Radical Left in Europe: Results and Prospects*”という記事の内容をベースに、現代のイタリア、スペイン、ギリシア、東欧、ドイツなどの国々における政治状況の変化をお話いただいた。EUの方針に縛られる中で、中道左派が次々にネオリベラル政策を取るようになり、右派との違いが薄れていくなかで、近年、極右政党やラディカルレフトといった勢力の台頭してきているという内容が軸となっていた。質疑の時間には、参加者から日本の政治状況の説明もなされ、その話を踏まえつつ世界的な情勢についての議論が行われ、ムスト氏と参加者との間の活発な交流が行われた。

・1/9「世界のマルクス研究について」

マルクスが生前に出版した著作は、彼が生涯に執筆した全著作物の分量からすると多いとは言えない。この回のムスト氏の報告では、前半にマルクスが（生前に刊行した）それらの著作を出版した目的について、後半にマルクスの死後に残された草稿がエンゲルスを始めとするさまざまな人物によって編集・刊行されてきた歴史を概観した。そして、後者の歴史が世界のマルクス研究に与えた影響について展開された。その後の質疑では、前回同様に、日本のマルクス研究の特殊な文脈について参加者から説明がなされた。ムスト氏が世界のマルクス研究者と交流のなかで確認した、世界各地での最新の研究状況についての話も交えつつ、今後のマルクス研究について活発な議論が行われた。

・1/19 講演会「『アナザー・マルクス』（ムスト氏著書）について」

本講演会は会場が満員になるほどの盛況であった。前半のムスト氏の講演では、『アナザー・マルクス』（堀之内出版）について、インターナショナルを扱う諸章や、MEGA の資料に基づいて描かれたマルクス晩年の軌跡についてなど、その特徴をお話しいただいた。後半では佐々木より、既存のマルクス伝にない特徴など、同書の刊行意義についてのコメントを行った。質疑においては質問が多数出され、議論が盛り上がりを見せた。

●その他の講演会

・12/22「マルクス生誕 200 年記念国際シンポジウム」(Review Session on Musto's *Another Marx*)

ムスト氏から『アナザー・マルクス』について紹介がなされた後、平子友長先生（一橋大学名誉教授）と神岡秀治氏（一橋大学大学院修士課程）からコメントがなされた。本分科会には、海外の研究者も多数参加しており、質疑の時間にはさまざまな観点からの議論が行われた。

・1/12 河野真太郎氏（一橋大学准教授）と対談イベント「マルクスと現代資本主義世界」

英文学を専門とする河野真太郎氏とムスト氏が、現代の資本主義から生じてくるさまざまな問題について、それぞれ違う専門の観点から、縦横に議論を展開した。対談は、予定時間を超えるほどの盛り上がりを見せた。

（特記事項）本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動を行った場合は、下記にその内容を記載してください。